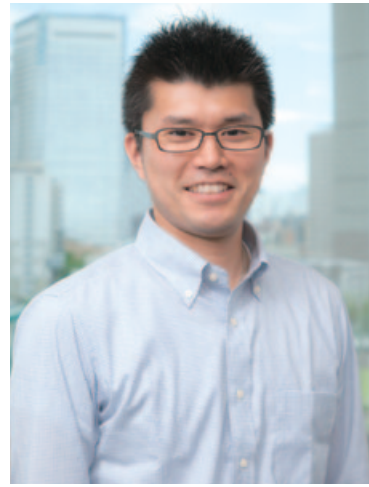




スポーツ選手のセカンドキャリアを考えた人材育成



システム基盤開発技術部
ミドルウェア技術室 2P
山田 英孝

Profile

2000年のシドニーオリンピック、2004年のアテネオリンピックのバドミントン男子シングルスで日本代表として2大会連続オリンピック出場。2005年に現役引退し、SEに転身。現在、セキュリティサービス全般を担当し、お客さまや社員から信頼される中堅のセキュリティエンジニアとなっている。



日本ユニシスでは、バドミントンのトッププレーヤー育成に努めるとともに、選手のセカンドキャリアを考えた研修体制を整え、バックアップをしています。現役引退後の選手たちは、営業やシステムエンジニアなど新たなステージで活躍しています。

ここでは元バドミントン男子シングルスオリンピック日本代表で、現在は当社のSEである山田 英孝に実際の体験談などを聞きました。

—いつ頃から「現役引退後の自分」を意識していたのですか。

実は、学生時代からです。実業団チームでプレーすることを考えた時、漠然とですが「引退後、会社でどんな仕事をするんだろう」と考えていました。普通は引退後まで考える選手は少ないかもしれませんが、私の場合は大学の時に怪我をしたことが将来を考えるきっかけとなりました。

—現役時代はバドミントンと仕事の両立にご苦労もあったのでは。

上司や先輩のみなさんが協力してくれて、導いてくださいました。「オリンピックに出るか出ないか、それは天と地ほどの違いだぞ」と、厳しい言葉で選手としての自分を応援してくれる一方で、短期で完結する仕事や課題を与えてくれて自然とセカンドキャリアに続く下地をつくってくれました。

—SEになるにあたって新人研修を受け直していらっしゃるんですね。

セキュリティは絶対的な信頼を必要とする分野です。お客さまに「元バドミントン選手にうちのセキュリティを任せて大丈夫か」と思われるのではないかと不安がありました。入社8年目に新入社員と机を並べる気恥ずかしさもありましたが、「まずは基礎的な知識と技術を固めなければ」という強い思いで乗り越えることができました。

現役引退後に再研修を受講できるといった部分で、日本ユニシスグループの研修制度はとても充実しています。後輩選手たちも、ぜひ活用してほしいですね。

—バドミントンとSE。まったく違うように思える両者には意外な共通点があると感じているそうですね。

バドミントンは、心理戦の要素が大きくて、駆け引きのスポーツなんです。いかに相手が考えていないところに打つか、また強く打つと見せかけてフェイントでかわしたり、プレッシャーを掛けたりして、最終的に相手を自分でコントロールできれば、勝利を得ることができるわけです。

SEの仕事は、お客さまの言葉の行間や裏に秘められた気持ちを汲み取り、そこに向かってこちらの言葉や行動を打ち込むことが重要です。さらにコントロール——といってしまうは大変失礼ですが、お客さまが望まれているやり方よりも良い方法があると思えば、お客さまの理解を得ながら、その方向に誘導していきます。それが、お客さまにとっても、我々にとっても、より良い成果を生むと思っています。

—これからの抱負を聞かせてください。

システムのオープン化が進む今、最後にお客さまが仕事のパートナーを選ぶ決め手となっているのは「この人から買いたいな」「この人と仕事をしたいな」という思いではないでしょうか。お客さまにそう信頼していただけるSEをめざしています。また、自分ができることは小さなことかもしれませんが、将来的には、仕事の中で得た知識や経験、培った人脈を活かし、バドミントンの世界と企業との橋渡しになれば、という夢も抱いています。

上司からの声

「常に全力投球で、妥協を許さない」。一言でいえば、それが山田さんの仕事ぶりです。依頼した仕事は丁寧にきっちり仕上げられるので、安心して任せられます。また、自分に厳しく妥協しない仕事ぶりと明るいキャラクターから、リピーターになってくださるお客さまも多いです。

今後は、プレーヤーとして業務に取り組むだけでなく、マネージャとしてより広い視野をもって、ビジネスやプロジェクトをコントロールする立場で活躍して、後輩選手の目標になってほしいと思います。



システム基盤開発技術部
ミドルウェア技術室 2P 課長
鈴木 武俊

日本ユニシス実業団バドミントン部について

バドミントンを通して、勇気や感動を

日本ユニシスは、1989年に実業団バドミントン部男子チームを創部。2007年には女子チームも創設し、「バドミントン日本リーグ2010」では、史上初の男女ダブルス優勝を果たしています。また2000年のシドニー大会から、アテネ、北京、そして2012年のロンドン（混合ダブルス 池田信太郎・潮田玲子組）と、4大会連続でオリンピック代表選手が選出されるなど、日本屈指の実業団チームとなっています。

そんな実業団バドミントン部の選手たちは、日本ユニシスのシンボルアスリートとして社会貢献活動にも積極的に取り組んでいます。東日本大震災の際は、復興支援として選手・スタッフが街頭で募金活動を行い、多くの方々のご協力によって総額85万9,411円を日本赤十字

社に寄付しました。また本社のある江東区をはじめ、各地域の小中高生対象に、定期的に講習会を開催し、スポーツの楽しさ・素晴らしさを伝えるとともに、未来のオリンピック選手たちの指導にあたっています。



2011年度 バドミントン講習会の実施状況

- 豊洲北小学校講習会(小学生対象)
- 有明スポーツセンター講習会(中学生対象)
- 仙台市内にて講演会(高校生対象)
- 鹿児島県講習会(小学生対象)
- 群馬県講習会(高校生対象)
- 宇都宮市講習会(小学生対象)



常に向上心をもって、スキルアップを意識して仕事に取り組むようしています。社内の先輩から知識や技術をどんどん吸収し自分自身の成長につなげていきたいと思っています。
(株)ユニエイド 飛田 真理子

お客さまのご期待に添うシステムを開発するためには自己研鑽がとても重要です。より高度なご要望にお応えするためにも、研究セミナーへの参加や文献調査を通じて積極的に技術を磨いていきます。



(株)エイファス 加藤 直人